

第34回警察庁政策評価研究会要旨

1 日時

平成29年6月19日（月）午後2時59分から午後4時30分までの間

2 場所

警察庁庁議室

3 出席者

○ 委員（五十音順）

江尻 良 東海旅客鉄道株式会社執行役員管財部長
妹尾 堅一郎 特定非営利活動法人産学連携推進機構理事長
田辺 国昭 東京大学大学院法学政治学研究科教授
前田 雅英 日本大学大学院法務研究科教授（座長）

○ 警察庁

三浦 正充 官房長
斉藤 実 総括審議官
小田部 耕治 政策評価審議官兼官房審議官（生活安全局担当）
大澤 裕之 サイバーセキュリティ・情報化審議官
貴志 浩平 官房審議官（国際・調整担当）
西川 直哉 官房審議官（犯罪被害者等施策担当）
高木 勇人 官房審議官（刑事局・犯罪収益対策担当）
白川 靖浩 官房審議官（警備局・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当）
塚原 秀利 技術審議官
直江 利克 総務課長
中村 彰宏 交通企画課理事官〔官房審議官（交通局担当）代理〕
杉本 伸正 総務課警察行政運営企画室長
小嶋 典明 科学警察研究所総務部長（オブザーバー）

4 議題

- ・平成28年度実績評価書（案）について

5 報告事項

- ・平成28年度政策評価実施結果報告書（案）について

6 議事要旨

- (1) 議題について、総務課警察行政運営企画室長による説明の後、質疑応答が行われた。

研究会委員の意見等の概要は以下のとおり。

- 基本目標1・業績目標3「悪質商法等の防止及び環境破壊等の防止」の中で、犯罪利用口座凍結のための金融機関への情報提供件数が減少していることについて、凍結の対象になるような口座自体が減っているのではないかと思うところ、情報提供件数自体は上がり得るものなのか。
 - 基本目標2・業績目標3「振り込め詐欺の始めとする特殊詐欺の捜査活動及び予防活動の強化」の中で、特殊詐欺の検挙件数及び検挙人員が増加しているのであれば、通常、特殊詐欺の認知件数及び被害総額についても関連して減少しそうなところ、認知件数が増えている理由はあるのか。
統計的に被害者の年齢別・地域別などにカテゴライズして国民に開示・啓発をしていけたら良いのではないか。
 - 基本目標2・業績目標4「捜査への科学技術の活用」の中で、DNA型データベースの活用件数が減少していることについて、データベースの登録件数が増えて行けば、一致件数が増える可能性があるところ、現状のものでマッチングさせたところで、一致件数は増えないのではないかと思うが、何か対策などはあるのか。
 - 基本目標3・業績目標1「暴力団等犯罪組織の存立基盤の弱体化」の中で、暴力団構成員等の中には、準暴力団は含まれるのか。
 - 基本目標3・業績目標2「国際組織犯罪対策の強化」の中で、業績指標①「来日外国人による共犯事件の包括罪種別検挙件数」について、来日外国人による共犯事件とのことだが、「国際組織犯罪」とどれくらい実態を反映しているものなのか。
 - 基本目標4・業績目標2「運転者対策の推進」の中で、業績指標②「70歳以上の高齢運転者による交通死亡事故件数及び70歳以上の免許保有者10万人当たりの交通死亡事故件数」について、件数が減少しているとのことで「◎」という評価となっているが、どのような基準で評価をしたのか。
 - 基本目標7・業績目標1「サイバーセキュリティの確保とサイバー犯罪・サイバー攻撃の抑止」について、評価結果について異論はないが、問題はこの先どうするか、政策への反映の方向性の問題であり、サイバーとリアル、サイバーとフィジカルの問題をどう捉えていくかが見えていないと物足りないという印象になってくる。これからは、いかに民間部門と治安に関する連携をしていくかが重要である。
- (2) 報告事項について、総務課警察行政運営企画室長から説明があった。研究会委員からの質問・意見はなかった。

以上